

縄文ロードに
向けた活動



通信

第 3 号



目次 活動報告…2 学習…2 イベント…5

平成12年度 活動報告

全国各地の発掘調査で今年も新たな発見があり、南茅部町からも日本最古級の漆が出土し、ますますみなさんの縄文への興味は尽きないことでしょう。全国各地から集まった会員の皆様方のご協力で、「北の縄文CLUB」の活動も無事終わることができました。心より感謝申し上げます。ここに、平成12年度に行われた活動の報告をいたします。

体験学習 自然観察・石器づくり
イベント 北の縄文CLUB主催 「縄文土器づくり大会」「野焼き」

学 習

植物観察会



あれがオヒョウの木ですか

ヤマウルシ、ヒツジの顔に似ているのがオニグルミです。」など、とても分かりやすい説明に、参加者のみんなも一生懸命メモを取っていました。その後、繊維として利用できるオヒョウの木やツルウメモドキ、食料となるオオウバユリやミズなど、縄文時代にも利用されていたと思われる植物について、次々と説明を受けていました。途中、気が付くとみんな下を向いて何やら採っている様子。周りを見ると、ワラビがあちらこちらに

今年最初の研修会は、大船C遺跡での植物観察会でした。この観察会は、遺跡周辺の植生を観察することによって縄文時代の植物利用を考えようというもので、講師に青森の三内丸山遺跡でも活躍されている日本樹木医学会理事の斉藤嘉次雄先生をお迎えして行われました。

観察会が行われた5月27日は、薄曇りで、山歩きには絶好の天気にも恵まれました。「サルの顔に似ているのが



あっ、本当にヒツジの顔に似てる～

顔を出しています。植物観察は一時中断して、しばしみんなでワラビ採りを楽しみました。

その後さらに進もうとしたとき、メンバーの一人が、杉の大木についた傷痕を発見。なんと、ヒグマが木に登った痕です。傷痕が乾いていないので、まだ木の上にいるのではないかと、みんなで上を見ましたが降りた後のようでした。昨年も、発掘現場のそばまでクマが来ていたので、そのクマなのかもしれません。それにしても、自然豊かな大船C遺跡の環境に、メンバーもあらためて感心してしまいました。

大船C遺跡の縄文人たちも、豊かな自然の中で暮らしていたことと思います。普段は見落としていますが、現在の私たちの周りにも、生活に必要な植物がまだまだたくさんあることがわかりました。縄文時代の生活の一端を感じることができ、非常に貴重な研修となりました。



これがクマの木登りした痕です



夕食の山菜片手に説明を受けるメンバー



沢で「ミズ」を発見

石器づくり

7月には石器づくりが行われました。まずは準備として6月に穂別町へ行き、猟友会々長の記伊正義氏を訪ねました。シカのツノを手に入れるためですが、これが結構遠くて往復で12時間くらいかかったでしょうか。シカのツノはネイティブ・アメリカンをはじめ、他の民族でも実際に石器を作るときに使っていたということもあり、使用することにしました。シカのツノを片手で握り、



それでは私がお手本を・・・

ハンマーとして使えるちょうど良い大きさに切らなければなりません。金切り鋸で切っていますが、実はこの作業がシカのツノを取りに行く以上につらい作業になることがあるのです。昨年の骨角器づくりに参加された方は覚えているかもしれませんが、シカのツノを切ったり削ったりすると何ともいえない異臭がするのです。しかし、今回は前回とは違い髓がしっかり乾燥していたので苦しまずに済みました。そして石器づくりの主役である黒曜石は白滝産のものを用意しました。今回の講師は縄文 CLUB のアドバイザーでもある小林貢氏にお願いしました。

参加人数は40名ほどで、一通り説明を受けると二人一組でこぶし大の黒曜石とシカのツノを手に取りゴン、コツコツと割り始める。ツノをあてる角度によって石の割れ方や剥がれ方は様々に変化します。黒曜石は余計な力を入れすぎると割りたくないところまで割れてしまうので、みんな微妙な力の加減をしながら

一生懸命形を整えていきます。一番神経を使うのはやはり刃の部分进行调整していくときでしょう。最後の最後に自分が予想していたのと違う剥がれ方をしてしまうととても悲しいですから。

苦勞して作った自分の石器で実際に魚やイカ、肉、野菜などの試し切りをしました。思っていた以上に切れ味が良く、みんなは驚きの声をあげていました。そのあと試し切りに使われた材料は無駄にすることなく、バーベキューにしてみんなのお腹の中に収めました。普通の包丁ではなく、青空の下作った石器を使って下ごしらえをして食べるととてもおいしく感じます。

黒曜石を割るところから始まって、実際に食材の魚をさばいたり、肉を切ったりして石器という道具から縄文を体験することができた楽しい一日でした。



切れ味サイコー！

イベント

縄文土器づくり大会



縄文に対する熱い思いを語っていただきました



大勢の人でにぎわいました

を作っていく。最後に文様を付けて出来上がり、となるのですが、これがなかなかにはまる。それぞれ個性的な土器を作ろうと一生懸命なので、友達に意見を求める人、目の前の粘土と向かい合い黙々と作る人、朝食で食べた魚の骨を押しつけて文様にする人などいました。なかでも粘土を3袋買って、高さ70cmほどの土器を作ろうとする謎の陶芸家はみんなの注目を浴びていました。

9月9日、クラブの一大イベントである縄文土器づくり大会が福祉センターで行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが140名以上もの参加者が集まりました。参加者の中には札幌市や天塩郡豊富町からいらした方もいました。石坂教育長の挨拶がおわり、長野県の石井幸子さんに「体験を通じた縄文文化」と題したお話しをしていただきました。石井さんは実際に土器を作り、竪穴住居に住んで生活し、自然と調和した縄文人の心に近づいた方だと実感しました。

お話しが終わると次はいよいよ実際に粘土に触れて土器を作っていきます。土器担当の坪井さんが壇上にあがり土器の作り方を簡単に説明します。しかし、石井さんのお話を聞きイマジネーションを刺激された方々はすでに粘土を袋から取り出して、準備万端。なかには練り始めている人もいました。

適当な大きさの粘土をこねてひも状にし、そのひもを積み重ねて土器の形



力作、もうすぐ完成！

昼食には「昆布の里蕎麦愛好会」打ち立てのそばが大盛況で、実においしかったです。午後から土器ができた順に講堂のステージ上へ土器を並べてもらいました。みんな自分の分身のように大事に大事に運んでいるようです。2週間後の野焼きに向けて無事乾燥しますように、と願いながらかどうかは分かりませんが着々と運んでいます。土器を運んでる途中の人から声をかけられ、「初めて土器を作ったけど、また作りにきたい。」とうれしい感想が聞けました。



お母さん、なかはこうするんだよ



今朝食べた魚の骨で文様付けしま～す

野焼き

9月23日の野焼きに向けて薪を切ったり、土器を焼くためのレーンを清掃したりしました。野焼きの準備で一番重要なポイントは土器をよく乾燥させることです。粘土がしっかり乾燥していないと焼いてる途中で割れてしまうからです。よく乾燥させるために日中は外に出してあげていました。もちろん傷つけないよう慎重に運び出し、倒れないように土器の中に文鎮を入れたり工夫しました。その甲斐あってか当日までには一番大きい土器も乾いていました。

野焼き当日は天候にも恵まれ、たくさんの人たちが集まりました。土器を焼くレーンの余分な水分をとばすために薪を並べ火を着けて下焼きをします。この時レーンの盛り土に土器を並べてむらのないよう乾燥させます。そして火が落ちて薪が炭になってから土器を盛り土の縁から徐々にレーンの中におろしていきます。火を着けてからおおよそ2時間、下焼きをします。火の勢いが強いときに薪をくべていくのはけっこう危険です。実際に頬や鼻を真っ赤にして顔がヒリヒリするという人もいました。みなさん気を付けましょう、といってもだんだん近づいていってしまうようです。

下焼きをしているうちにちょうどお昼の時間になり、本焼きの前に腹ごしらえをしておきます。そして、いよいよ本焼きに入ります。



乾燥させるため土器をクルクル



いよいよ本焼きです



灰のなかから見事な土器が現れました

いしましたが残念ながら乾燥が足りず、弾けてしまいました。しかし来年こそはとりベンジの約束をしてくれました。割れてしまった人、ヒビが入ってしまった人、また頑張って来年つくりましょう。失敗のあとに成功はついてくるのですから。

土器自体はだいたい7~800℃くらいで焼いていくことで堅くなります。そのため本焼きはただひたすら薪を入れてガンガン燃やしていきます。このときが土器にとって不安定で一番壊れやすく、人間にとって火傷しやすい一番危険なときです。一気に燃やしていくので薪をワッサワッサと入れていきます。しかし火が熱いからといって離れたところから投げ入れてしまうと土器にあたって簡単に割れてしまいます。ここが我慢のしどころですが我慢のしすぎで火傷しないように注意しましょう。

薪と炎の隙間から土器をのぞくと土器が真っ赤に燃えているようでとても神秘的に見えます。

火が消えて土器がちらほら見え始めるとあちらこちらから歓声が上がります。土器が壊れずに無事焼き上がった人はみんな満足げに自分の土器を見つめています。眉毛や髪の毛をチリチリにしちゃった人、本当にご苦労さまでした。これもすべて熱さにひるまず、髪の毛や眉毛を犠牲にして薪をくべたみんなのがんばりによるところだと思います。土偶をつくってきた人も



また来年も参加するぞ~